学部 / 看護専門領域 / 健康・疾病・障害の理解科
目コード:130013

疾病・障害論 Ⅰ（概論） Diseases and Disorders Ⅰ (Introduction)

担当教員	岩佐和夫											
実務経験	医師として臨床経験のある教員が担当している。											
開講年次	1年次前期		単位数		1			授業形態		講義		
必修・選択	必修		時間数		15							
該当ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ・ﾎﾟﾘｼｰ	(1)		(2)	◎	(3)		(4)	○	(5)		(6)	
Keywords	医学、医療、健康、疾患、主訴、症状と徴候、症候学、医学専門用語											

学習目的・目標	「疾病・障害論I・IIA・IIB・IIC」のシリーズは、1年次と2年次、計2年をかけて、医療と疾病・障害の基礎知識を学びます。このシリーズでは、医療者としての役割を果たす上で必要な疾病の基礎的な知識を整理し、理解していくことを目的とします。 1). 患者にとっての最善の医療とは何かを理解し、患者に寄り添うために必要な自己の目標を考える。 2). 疾病の軽快・治癒は患者自身の生命活動によるものであり、医療はそれが最大限に発揮されるように手助けをおこなっていることを理解し、個々の患者における医療について考えることができる基礎力を身につける。 3). 患者の心身にわたる訴えや徴候を的確に捉え共感するとともに患者の病態を理解し、医療者が患者全般において行う臨床推論の基礎を構築する。 4). 疾病に対する知識に基づき、アセスメントを行うことの大切さを理解する。 5). 生涯にわたり、医療について学ぶことの大切さを理解する。 疾病障害論Iの目的: シリーズの最初の「疾病・障害論I」は、はじめに「医療学入門」として医療の原則と概念を学び、患者さんの訴えや症状・徴候について理解することを目指します。 目標: 1).医学・医療について考える。 2).患者に共感できる自己形成について考える。 3).医学的な知識を整理し、専門用語を理解する。 4).患者さんの訴え(主訴)、症状、徴候を理解する。 5).疾病障害論IIシリーズに向けて、基礎的な医学知識を身につける。

授業計画・内容

回	内容
1	医学概論入門　医学・医療、健康・疾病・障害のなりたち(総論)
2	病態と症状・徴候(1) 循環器疾患
3	病態と症状・徴候(2) 呼吸器疾患
4	病態と症状・徴候(3) 消化器疾患
5	病態と症状・徴候(4) 腎疾患・尿路疾患
6	病態と症状・徴候(5) 代謝疾患・内分泌疾患
7	病態と症状・徴候(6) 血液疾患・アレルギー疾患
8	病態と症状・徴候(7) 脳神経疾患・運動器疾患

教科書	看護のための臨床病態学(南山堂)、 PDF資料
参考図書等	カラー図解 人体の正常構造と機能(日本医事新報社):図書館KinoDenから無料でアクセスできます。 なるほどなっとく！解剖生理学(南山堂)、なるほどなっとく！病理学(南山堂) 看護師・看護学生のためのレビューブック(メディックメディア 北村諭著「医学概論」(中外医学社) 日野原重明著「医学概論」(医学書院)(注:図書館で借りてください) 看護師国試対策 START BOOK 解剖生理と疾病の特性(南山堂)
評価指標	成績判定の対象者:出席2/3以上。 成績評価:課題発表、小テストおよび定期試験の総合点で評価する。 小テストの締め切りはMoodle上に提示する。提出が遅れた場合は大きく減点する。
関連科目	解剖生理学、生物学、代謝と栄養、人間病態学、フィジカルアセスメント、看護学の各科目
教員から学生へのメッセージ	苦痛や不安を抱えた患者が医療機関を訪れたとき、どうしてほしいと思っているでしょうか？安心？心のケア？それだけではありませんよね。一番してほしいことは、病気を治すこと、もし治らない場合は、できるだけ苦痛を取り除き、なるべく自分がこうしたいと思うように過ごせる時間を作り出すことではないでしょうか。 そのためには正確な診断と相応しい治療・的確なケアが必要です。看護職は患者の最も近くにいて、患者の身体症状や心の動きを一番早く察知する医療者です。病態に相応しい症状のコントロールのプロフェッショナルでなければなりません。基本的な医学知識は不可欠です。 看護職に限らず、医療者のミッションは、患者を第一に考え、生涯に亘りその患者自身にとって最大の利益・QOLが得られるように考え、行動することです。そのためには、専門知識、専門技能、温かい心とそれを態度に表し伝える能力が必要です。その根底にはいつも誠実であることが求められます。患者に選ばれるあなたになれるよう、これから誠実に学んでいきましょう。